

札幌5：カナダ、日本、フランス、英国、米国（仮訳）

2023年12月7日にUAEで開催された気候変動枠組条約第28回締約国会議（COP 28）において、

札幌で組織されたG7の我々5カ国が、世界のウラン転換及び濃縮生産能力の50%について共同で責任を負っていることを認識し、

2050年までに原子力発電容量を3倍にするという世界の野心的な目標、特に、ネットゼロ原子力宣言で確認されたように、安全で確実な原子力技術を提供するための、燃料を含む強靱なサプライチェーンの必要性を認識する。

カナダ、日本、フランス、英国及び米国を含む、俗に「札幌ファイブ」として知られている国は、

ロシア産原料を使用しない濃縮ウラン生産能力への官民投資を促進することを決意し、

ロシアの影響力を排除し、他国による政治的影響力の影響を受ける可能性のない、強靱な世界のウラン供給市場を確立することを決意し、

我々の転換及び濃縮ウランの生産能力を向上し、信頼できる核燃料供給国を確保するための努力を推進するために必要な、政府または民間主導の財源投入を可能とするために取り組むことを決意し、

今後3年間で、我々5カ国の濃縮・転換能力に対する政府主導及び民間の投資を少なくとも42億米ドルを追求し、同志国の開かれた市場のルールに抵触することなく、民間セクターの資金調達を促進する我々の発表を強調し、

同志国の原子力発電事業者又は原子力産業の直接のエンドユーザーに対し、原子力産業が生産能力を増強するための関連投資を行うよう、シグナルを発し、自信を与えるような長期供給戦略を促し、

信頼できる原子力パートナーを求める、すべての志を同じくする国々に対して、世界のウラン燃料サプライチェーンを確保するために、我々の仲間になることを招請する。